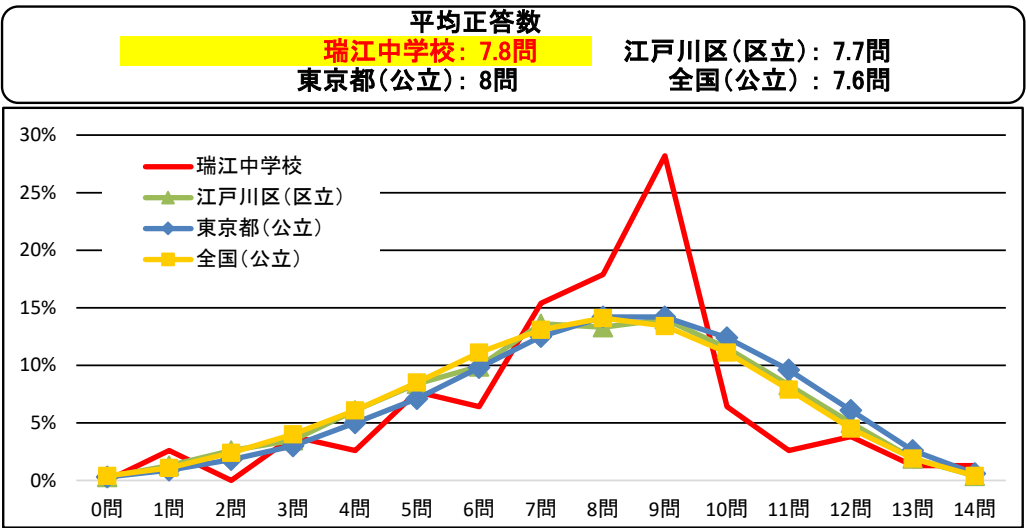


令和7年度全国学力・学習状況調査 結果分析表【国語】 瑞江中学校

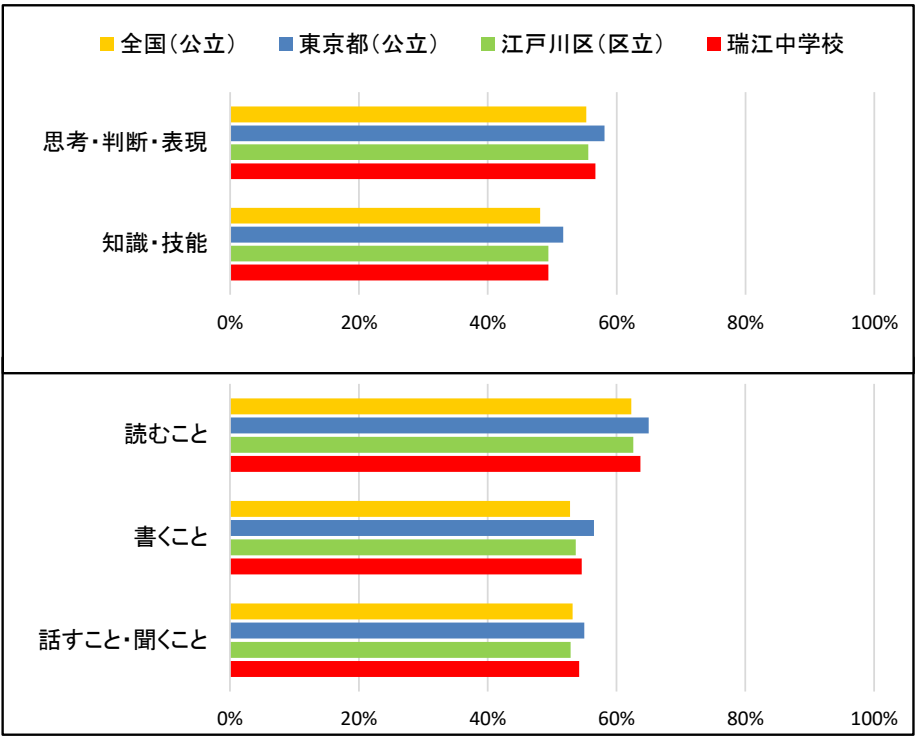
正 答 数 分 布



【平均正答率の差】

瑞江中学校	56%
江戸川区(区立)	55%
東京都(公立)	57%
全国(公立)	54.3%
都との差(ポイント)	-1.0

「領域別」の結果

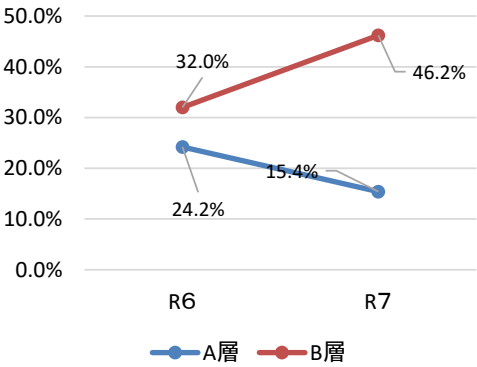


四 分 位 に お け る 割 合 (都 全 体 の 四 分 位 に よ る)

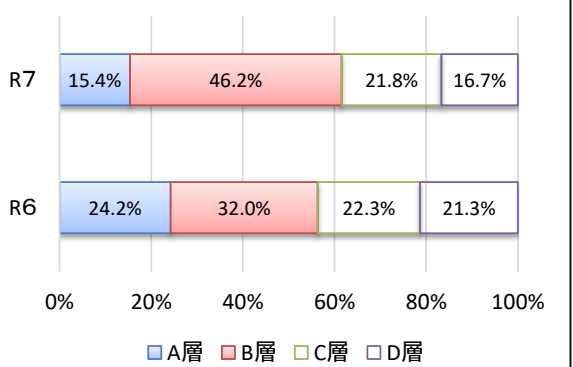
国 語	上位 ←		→ 下位	
	A 層 10～14問	B 層 8～9問	C 層 6～7問	D 層 0～5問
瑞江中学校	15.4%	46.2%	21.8%	16.7%
江戸川区(区立)	27.1%	27.2%	23.5%	22.2%
東京都(公立)	31.2%	28.4%	22.3%	18.1%
全国(公立)	25.8%	27.5%	24.2%	22.5%

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。

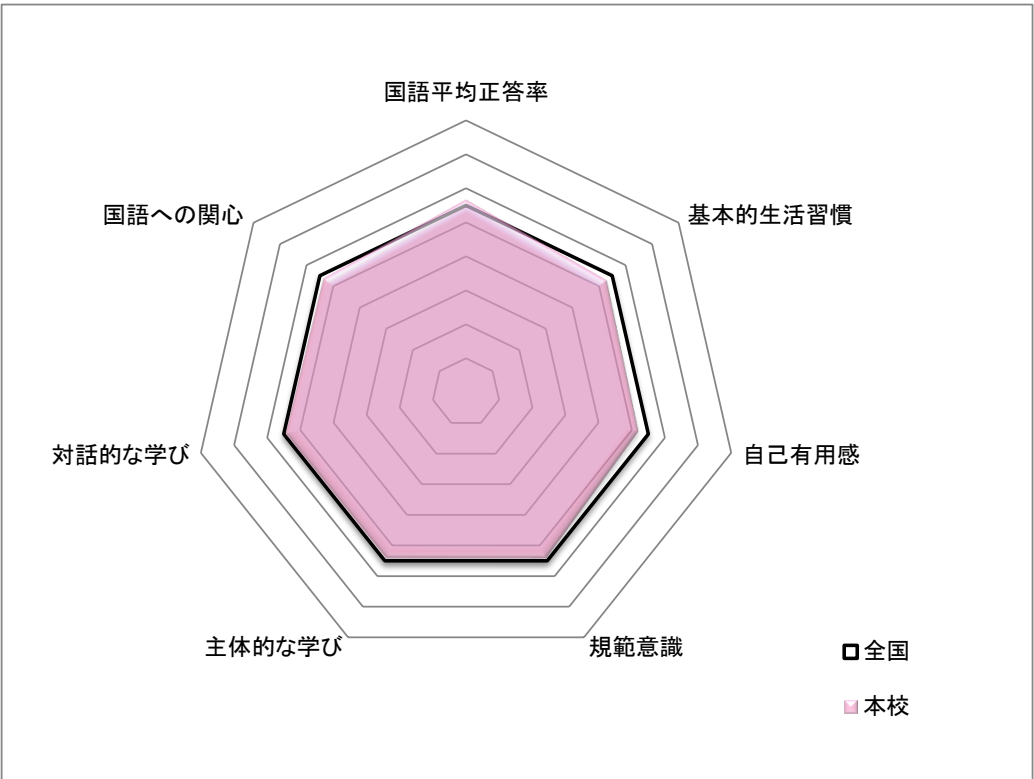
AB層割合の推移



AB層割合の前年度比



各 領 域 に お け る 、 全 国 平 均 正 答 率 及 び 、 全 国 の 肯 定 的 回 答 合 計 値 を 基 準 と し た 場 合 の 、 本 校 の 様 子 。



《チャートの特徴》

国語の平均正答率を除き、本校は全国平均を下回っている。特に、自己有用感と基本的な生活習慣が低い傾向にある。基本的な生活習慣の確立が一人一人の心と体の健康を支えているので、規則正しい生活習慣を奨励することは一つの解決策となるだろう。また自己有用感とは「自分が誰かの役に立っている」という実感なので、諸活動の際は自信をもたせる指導が有効だといえる。

《家庭・地域への働きかけ》

各学年通信や学校だよりを通じて、行事においても、通常授業においても“学びの重要性”を発信している。更に進路説明会への悉皆参加を呼びかけるなどして、保護者の“学習”への関心度・理解度の向上も図っている。

《現状把握》

●AB層の割合と取組内容について

本校におけるA層(高位層)の割合は、都全体と比べ、15.8ポイント低い。しかし、B層は17.8ポイント高く、AB層の合計としては、都全体に比べて2.0ポイント上回っている。つまり、B層の基礎学力が定着している生徒たちへいかに、より高次の段階の学習へ興味をもたせ、実力を伸ばしていけるかが課題である。

《学校の取組》

・教員の指導力向上

教員の指導力向上のために、全校で取り組んでいることとして、互いの授業を見合う“授業研究の時間”を設定している。また、ICT活用を推進するべく、年に数回校内研修会を実施し、授業展開の工夫の一助としている。

・基礎学力の保障

学習習慣の確立として、家庭学習ノートの奨励を行っている。毎日の家庭学習習慣の確立、勉強へのモチベーション保持の一役を買っており、取り組みの拡大・充実を図っていききたい。また宿題として強制的に課すだけでなく、一人一人に合ったスタイルで学習できるように、自主学習として副教材のワークやミライシードを使用して基礎学力を定着させるよう促している。

・学習習慣の確立

基礎学力の保障として、本校では読解力向上のためのYOMU YOMUワークシートの活用に重点を置いている。また、朝読書の適切な実施を行うことで、活字離れを防ぎ、日々の授業内では漢字テストを定期的の実施することで知識の定着を図っている。

・AB層の育成

定期考査前の教科ごとの質問教室や、放課後自習室の実施により、学習習慣が既に定着しているAB層の学習時間の確保につながっている。今後は自習室の環境整備と活用の拡充に努め、受験期の3学年だけでなく、全校で学習に向かう機運を高めていきたい。